



学校だより

令和8年 10月 1日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

「台風・秋雨前線・台風・雨の9月から・・・10月「秋晴れ」への願望」

「9月は雨傘とずっと一緒だったのだ。」と、改めて一か月を振り返ってみました。湿度は高く、どんよりとした9月の空というのは、経験をしたことのない1か月でした。10月になると、季節の変わり目の微妙な気温の変化が、大人にとっても子供にとっても、体調に影響します。今年の10月は「秋晴れ」を期待して、社会見学や校外学習、高2修学旅行、そして村山祭への準備活動に精力的に取り組んでいきたいと思います。

また、日々の体調の管理も、しっかりと行っていきますので、御家庭でも何か変化がありましたら、小さなことでも構いませんので、連絡帳に御記入をお願いします。

【第2回学校公開 9月11日(金)】

第2回の学校公開は、広く外部向けに行いました。各市の教育委員会、福祉施設関係者、保育園、医療関係者、未就学児童保護者の皆様など、今年度は、50名以上の方々に御参観いただきました。お忙しいところ、本当にありがとうございました。

本校は、現在、仮設校舎であるため、特別支援学校であっても災害時に福祉避難所とはならず、新青梅街道の交差点の方から眺めると、地域の皆様に肢体不自由特別支援学校であることを御理解いただくのも難しいような、一見、四角くて巨大な倉庫のような建物です。

感染症の影響も少なくなりましたので、少しでも、子供たちの授業の様子を御覧いただき、学校で子供たちが、どのように学習に取り組んでいるのか、教科指導のカリキュラムはどのように組まれているのか、御理解いただけると嬉しい限りです。写真にある、皆様にお集まりいただいた場所は、体育館ではなく、多目的室ですのでスポーツをするには少し狭いのですが、車椅子で体育の授業を行ったり、始業式や終業式、また近隣の小学校・中学校・高等学校の児童・生徒の皆さんが、交流に来てくれたりできる場所として活用しています。

構内に入出入りする大小、様々なスクールバスの数も26台と多くて御迷惑をおかけいたしますが、通学区域6市1町からの子供たちが集まって学習をしていますので、学校公開などの機会をとおして、地域の皆様にも御理解いただけるように取り組んでまいります。



【9月19日(土) CACカップ 学生ボッチャ交流戦大会出場(墨田区総合体育館)】



本校パラスポーツ部生徒9名が、2チームに分かれてCACカップ学生ボッチャ交流戦に出場しました。場所はひがしアリーナ(墨田区総合体育館)3階メインアリーナで、参加校は17校、26チーム(選手100名、コーチ・アシスタント82名、総勢182名)、試合形式は、予選8リーグで各チーム2試合を実施。リーグ敗退チーム同士による交流戦を午後実施するという、試合に敗退しても、まだ試合があるという緊張

感を常に持続して競技に向き合わなければいけないという、なかなかハードな試合展開でした。学校で練習している時とは、生徒の表情や顔つきが少し違っていて、観客席から見ていても緊張感がこちらにも伝わってきました。大きなアリーナで、東京都内の肢体不自由特別支援学校からそれぞれ出場してきた選手たちとの真剣勝負でした。すごく大切な経験になりました。

今年度の結果は思うようには出ませんでしたでしたが、本校の村山フェニックスAチームが敢闘賞をいただきました！

こうした経験を生かして、たくさんの力を付けて、なんにでも笑顔で対応できる人になってくれたらと思っています。墨田区総合体育館は遠かったですが、応援も力になります。ありがとうございました。

【9月25日（金）道徳授業地区公開講座行いました。】

道徳授業地区公開講座とは、学校、家庭及び地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として、東京都教育委員会と区市町村教育委員会が連携して、平成10年から都内公立小・中学校等で開催しているものです。

「特別の教科 道徳」の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「特別の教科 道徳」の内容構成

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

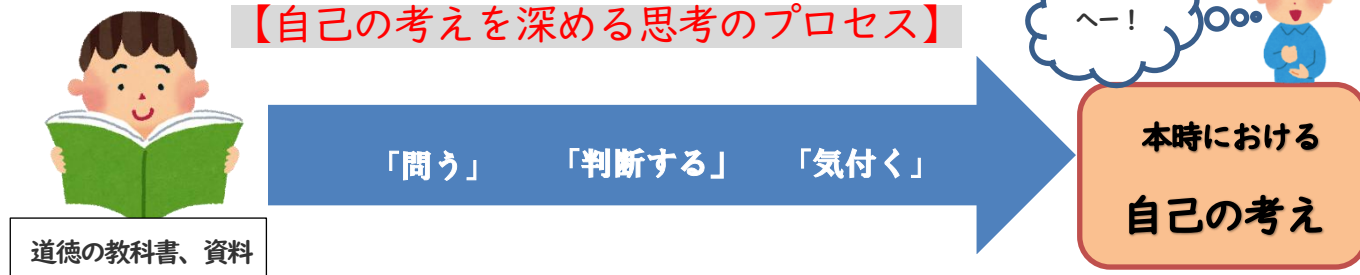
今年度は、内容構成の「C 主として集団や社会との関わりに関すること」をテーマとして取り組みました。働くことや、選挙の意味などを扱った授業で、道徳教育と、キャリア教育を密接につなげた授業となりました。

講師として今年度も、本校学校運営連絡協議会委員長、元墨田特別支援学校校長 朝日 滋也様にお越しいただき「社会や周囲とのかかわりを豊かにするためにできること～日々の生活から考える道徳の内容項目～」をテーマにお話をいただき、授業者への講評も対応していただきました。また、保護者の方々や外部の方にも授業を参観していただくことができました。

従来の「道徳の時間」は、読み物の登場人物の心情理解に偏り、主人公の気持ちを考えさせ、それを書かせたり、発表させたりする授業になっていたことが課題とされてきました。それでは「国語」の読み取りの授業と混同されやすいからです。

「特別の教科 道徳」では、自ら、考えざるを得ないテーマを投げ掛けたり、人と話をするテーマを設定して問い掛けたりして、**児童・生徒が自分なりに考え、言葉にすることが大切なのです。**それをとおして、自ら考えを深め、自分自身の問題と捉え、向き合う、「考える道徳」「議論する道徳」に取り組んでいかななくてはならないのです。教員としては「考えに足る発問」をして「他者と話して言葉を整理する道徳」に取り組んでいかななくてはなりません。多面的・多角的に考える学習を充実させることが必要です。

【自己の考えを深める思考のプロセス】



児童・生徒が問題について、主体的に自分との関わりで「問い」続ける中で、他者と話をして、自分の「判断」をもち、へーそうなんだ！と「気づき」に至るまでの思考のプロセスを支えるのが「主体的・対話的で深い学び」の視点です。特に児童・生徒が新たな「気づき」に出会うためには「深い学び」が必要です。そのためには、「明確な意図に基づいた授業構想」とともに、児童・生徒の「自己の考えを深める思考のプロセス」を意識した指導の実践が大切である。（道徳科 指導と評価のガイドブックより）とされています。本校では、内容構成のテーマを毎年変えて、授業づくりを行い、少しずつですが、内容を深めてきています。

「特別の教科 道徳」の時間では、子供たちが、自分の考えを深める思考のプロセスを大切にしていきたいと考えています。御参観いただいた皆様、ありがとうございました。

校長 阿部 智子